

令和の里海づくりの取組について

環境省 水・大気環境局 環境創造室

室長 森川 政人



令和の
里海づくり

「ネイチャーポジティブ」イメージキャラクター

だいだらぽじー

DAIDARAPOSIE



かつては死の海と言われたが…

埋立による
浅海域の喪失

大規模赤潮
の頻発



高度経済成長に伴う汚濁負荷

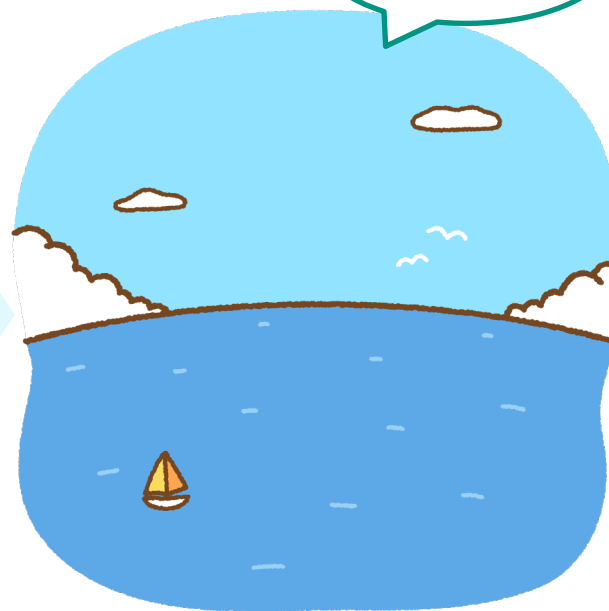
水濁法の制定

総量規制の導入

規制項目の拡充

汚濁負荷は半分以下に

水質や透明度
の改善



- しかし、水産資源はいまだ回復せず…
- 気候変動といった新たな課題も！

今後の里海づくりのあり方に関する提言（概要版）

（2025年3月 今後の里海づくりのあり方検討会）

＜里海を取り巻く経緯と課題＞ ※里海：人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域

- ◆ 高度経済成長期に、開発による**自然環境の劣化や消失、汚濁負荷の増大、水質の悪化**
- ◆ 水質保全を目的とした**排水規制等の施策**による水質の改善を経て**豊かな海（里海）づくりへ**
- ◆ 令和4年度から**令和の里海づくりモデル事業**により、現状の把握や課題、事例の収集と地域支援を実施
- ◆ 社会構造や価値観の変化、気候変動、場の消失等を踏まえた複数施策への**統合的アプローチ**の必要性

これらの状況を踏まえ**環境省が取り組むべき「今後の里海づくりのあり方」**を検討

環境省が目指すべき「里海づくり」の理念と指針

- 1) 良好な海域環境の**保全・再生・創出**
- 2) 地域資源の適切な**利活用による保全と好循環の形成**
- 3) 地域の歴史、伝統、文化等や自主性を重んじた**多様な主体の参加と連携**

提言1：良好な里海の保全・再生・創出

- ・ 良好な海洋環境の「保全」、劣化した場の「再生」、失われた場の「創出」
- ・ 森里川海の連環
- ・ 科学技術的、社会経済的にも実現可能かつ具体的、定量的な目標設定
- ・ 自然の変動やかく乱を受けても自律的に回復、存続できる
- ・ 海域環境や生態学に関する調査とモニタリング、アセスメントによる評価と順応的管理
- ・ 沿岸域の地域づくりの一環として取り組む
- ・ ウェルビーイング/高い生活の質にも貢献
- ・ 研究分野の進展と成果の実装

提言2：里海における資源の利活用と好循環の形成

- ・ 一般の市民が日々の生活のなかで里海づくりに触れ、参加できる機会を通じた生活での利活用
- ・ 地域や国内外を問わずレクリエーション、アクティビティ等の観光での利活用
- ・ 地域の歴史や伝統文化に配慮した農林漁業での利活用
- ・ 海洋リテラシーの充実をはかる海洋教育の実践を通じた海洋教育での利活用

提言3：地域の自主性を重んじた多様な主体の参加と連携

- ・ 多様な主体者との連携のためのネットワークの構築と支援
- ・ 関係省庁、関係団体とのシナジー発揮、連携の強化

モデル構築による地域の取組支援のみでなく、科学的知見の充実、情報共有の場づくりなどを通じて、
戦略的に「令和の里海づくり」を推進

令和7年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業



- 「藻場・干潟の保全・再生・創出」と「地域資源の利活用による好循環」、さらに「多様な主体者との連携」を実行する「令和の里海づくり」を実現するための支援事業を実施。

藻場・干潟の 保全・再生・創出

藻場の保護活動

市民科学を通じたりテラシー向上と
教育・研究との連携

地域資源の利活用 による好循環

未利用・低利用魚を
使ったメニュー開発

環境に配慮した持続可能な
観光商材の開発

多様な主体の連携

地域内外の関係者と連携
海に親しむ学びに始まる
海洋教育の実践



令和7年度『戦略的「令和の里海づくり」
基盤構築支援事業』取組地域



藻場・干潟の保全・再生の評価の手引き書

- 里海づくりの一環として藻場・干潟の保全や再生等に取り組む際の課題となる、**ブルーカーボン**をはじめとした調査手法・評価手法や活用方法、効果を提示。
- **取組成果を見える化**することを目的として、手引書としてコンパクトに整理。

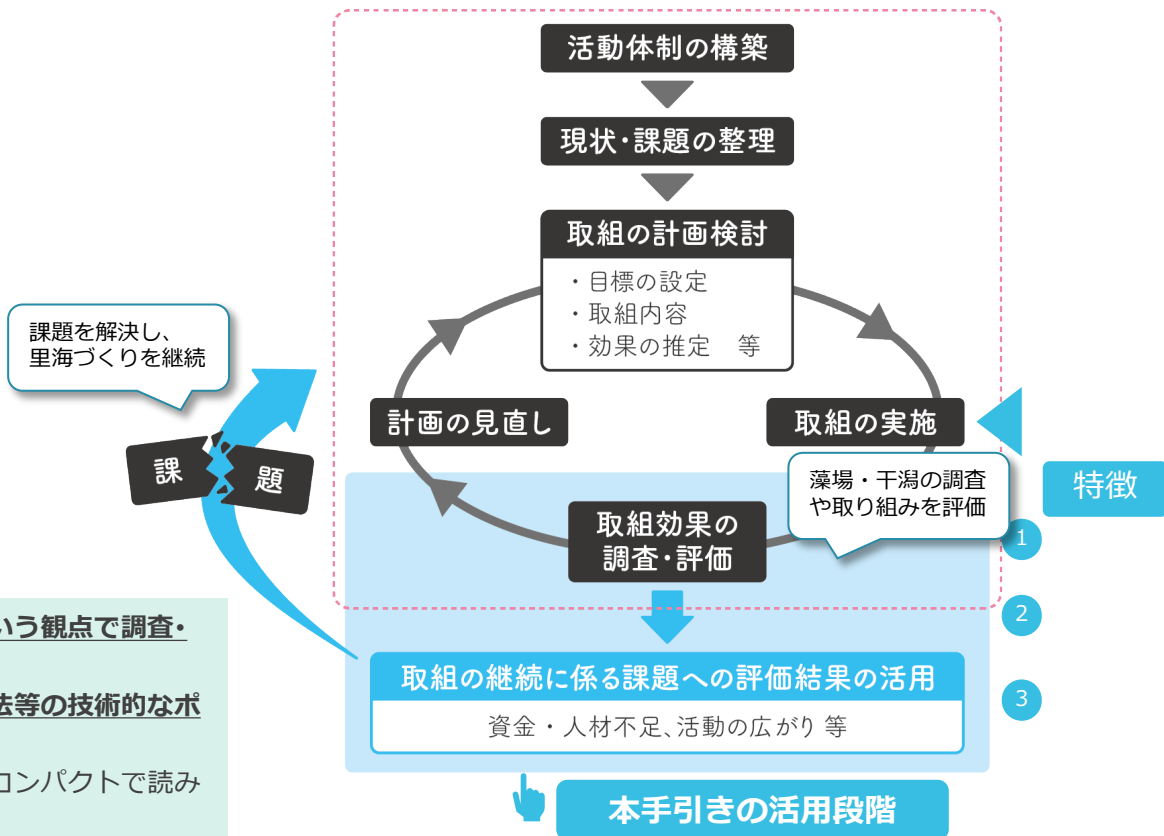


- 里海づくりの取組で直面する課題の解決に活用するという観点で調査・評価の方法を整理
- モデル海域の実施例の踏まえ、調査項目の選び方や方法等の技術的なポイントを、取組実施者の視点から整理
- 他の専門的な参考資料へと繋がる資料として整理し、コンパクトで読みやすく工夫

※その他の参考資料：環境省、水産庁、JBE、水産教育研究機構等

本手引きの活用方法レベル

【里海づくりの進め方】





地域の概要及び課題

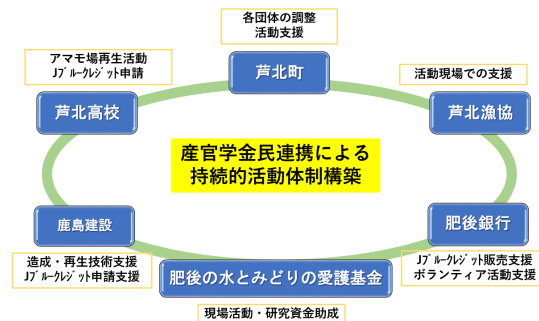
【地域の概要】

- 2003年芦北漁協から依頼を受け、熊本県立芦北高校林業科はアマモ再生の取組を授業に組み入れ、継続している。
- 0.025haから7haにまで再生したアマモ場が2020年熊本豪雨により5haが土砂により枯死。現在も高校生の力により再生活動を継続している地域

【課題】

- 高校が主体の活動のため、科学的知見や経験が不足。
- 活動資金の不足。
- 産官学金民連携による支援体制が構築されていない。

取り組みの実施体制、連携



熊本県八代海沿岸



R6年度モデル事業における取組内容および成果

藻場再生に係る技術的支援

- 芦北高校、天草高校などに対し、出前授業を実施。（鹿島建設）



【成果】

- 専門家と連携した水中ドローン、水中温度計を活用した藻場の調査により、科学的調査手法の基盤形成。
- 藻場の空撮技術を地元ドローン業者が修得。

持続的活動の資金確保

- 活動団体による自立した**Jブルークレジット**の申請を技術的にサポート。



代表申請者
熊本県立
芦北高校

【成果】

- コンサルは活用せず、産官学金民連携による熊本県初のブルークレジット申請。CO2吸収量31 t 認証取得。

地域内連携体制の構築

- 持続的な連携体制の構築を目的に芦北町における関係機関との調整を実施。



【成果】

- 芦北町、芦北町漁協、芦北高校、鹿島建設、肥後銀行、愛護基金6者による連携協定を締結。



協定書

普及啓発ツールの作成

- アマモ場の重要性、Jブルークレジットの自立的申請体制を記載したパンフレットの作成。



【成果】

- 地元関係者および地方公共団体の理解促進を図る。

今後の課題および 取組方針

- 海水温度上昇によるアマモ場の急速な減少およびアマモ定着率の悪化を改善するための専門調査を実施。
- 活動団体に対し、円滑な伴走支援を行うための地元の研究機関との連携強化。
- 連携協定に基づく取り組みを展開し、企業や住民を巻き込んだ地域ぐるみの支援体制を確立。他の地域への波及。

里海づくりの現場における民間協業事例

- 「令和の里海づくり」事業がきっかけとなって**民間企業との新たな連携・協業**が生まれ、活動資金の獲得や事業拡大に繋がる好事例が増えている。
- 実施団体がパートナーシップを拡大し、**地域づくりのコーディネーターとして里海という地域資源を活用した地域活性化**を実現している。

R6実施団体：株式会社WMI（北海道函館市）

- ・造成したコンブを**ヘアケア用品**や**コンビニ商品**に使用
⇒サステナブルブランドとしての発信
- ・地域関係者と大阪・関西**万博**で**イベント開催**
⇒里海事業実施による信頼獲得
- ・生分解性粘土を用いた**海洋教育の展開**
⇒地域のコーディネーターとして活躍



海洋教育活動



シャンプー

トリートメント



サラヤの商品に活用



セブンイレブンの商品に活用

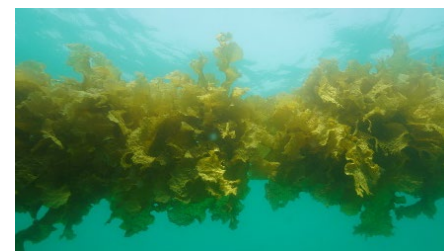
万博での発信

R5実施団体：新庄漁業協同組合（和歌山県田辺市）

- ・取組価値を認められ、**民間企業の支援獲得**
⇒環境保全活動の価値発信の成果
- ・保全活動の**エコツアー化**による**資金獲得**
⇒売上の一部を保全活動へ
- ・**生物多様性保全の価値の視覚化**
⇒自然共生サイトの認定に加え、**Jブルークレジットの発行**へ



トヨフジ海運からの支援獲得



ヒロメ養殖の拡大と藻場造成



保全活動の体験ツアー



自然共生サイト認定

里海づくりの現場における民間協業事例

- 大阪湾では、大阪府が掲げる「**大阪湾MOBAリンク構想**」に基づき、埋立てや水質汚濁等により消失した大阪湾奥のアマモ場の復活に向けたプロジェクトを「令和の里海づくり」で支援。
- **産官学民**といった多様な関係者が参画し事業を実施。



大阪湾の藻場・干潟のミッシングリンクとなっている湾奥部における保全・再生・創出に取り組むことで、大阪湾沿岸を**ブルーカーボン生態系の回廊（コリドー）**でつなぐ構想

R4

- ・(株)ENEOSが主体となり、大阪府と連携して、藻類着床を目指した取組を実施
⇒周辺の消波ブロックに見られなかったアオサやシオミドロ（褐藻類）など何種類かの新しい海藻も確認。



R5

- ・海遊館とも連携し、**学芸員が主体**となり生物生息空間の設置や、海洋教育を試行。
⇒住民への**普及啓発**や中高生への**巻き込み**



生物生息空間創出



潮だまりの造成



ワークショップ

R6

- ・大阪湾奥で**里海づくり（耕耘作業、生物調査、生物生息空間創出等）**を実施。
⇒住民も巻き込み認知度を向上させつつ、生態系も再生



里海づくり活動



都市部での普及啓発



体験機会の創出

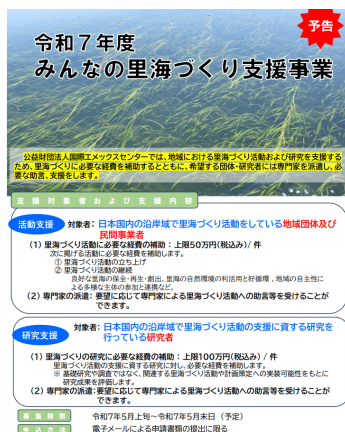
里海づくりの推進に向けた関係団体等との連携強化

- 里海づくりと親和性の高い取組を実施している、**民間企業等との連携協定を締結**することにより、双方の事業でのシナジー効果を期待。
- 調査、情報発信、経験知の共有、認知度の向上等の取組を連携して実施し、**地域取組の更なる展開と幅広いターゲット層へのアプローチが実現。**

(公財)国際エメックスセンター(令和6年5月)



滝沢環境副大臣 服部兵庫県副知事



みんなの里海づくり支援事業の実施

※協定に基づきエメックス独自の支援事業を立ち上げ

- ・活動支援 (17件)
- ・研究支援 (8件)

【協定名称】

里海づくりの推進に関する協定

【内容】

- ・里海づくり施策の推進に資する調査、技術的助言、催事の開催、情報発信、関係団体とのネットワークの構築
- ・調査研究、研修の実施及び活動に関する支援、国際的かつ学際的な交流推進

パタゴニア・インターナショナル・インク(令和7年7月)



マーティ・ボンフリー日本支社長 浅尾環境大臣

Ridge to Reef プロジェクト

※流域視点で沿岸生態系の再生を支援 (「令和の里海づくり」モデル事業実施地域も対象)

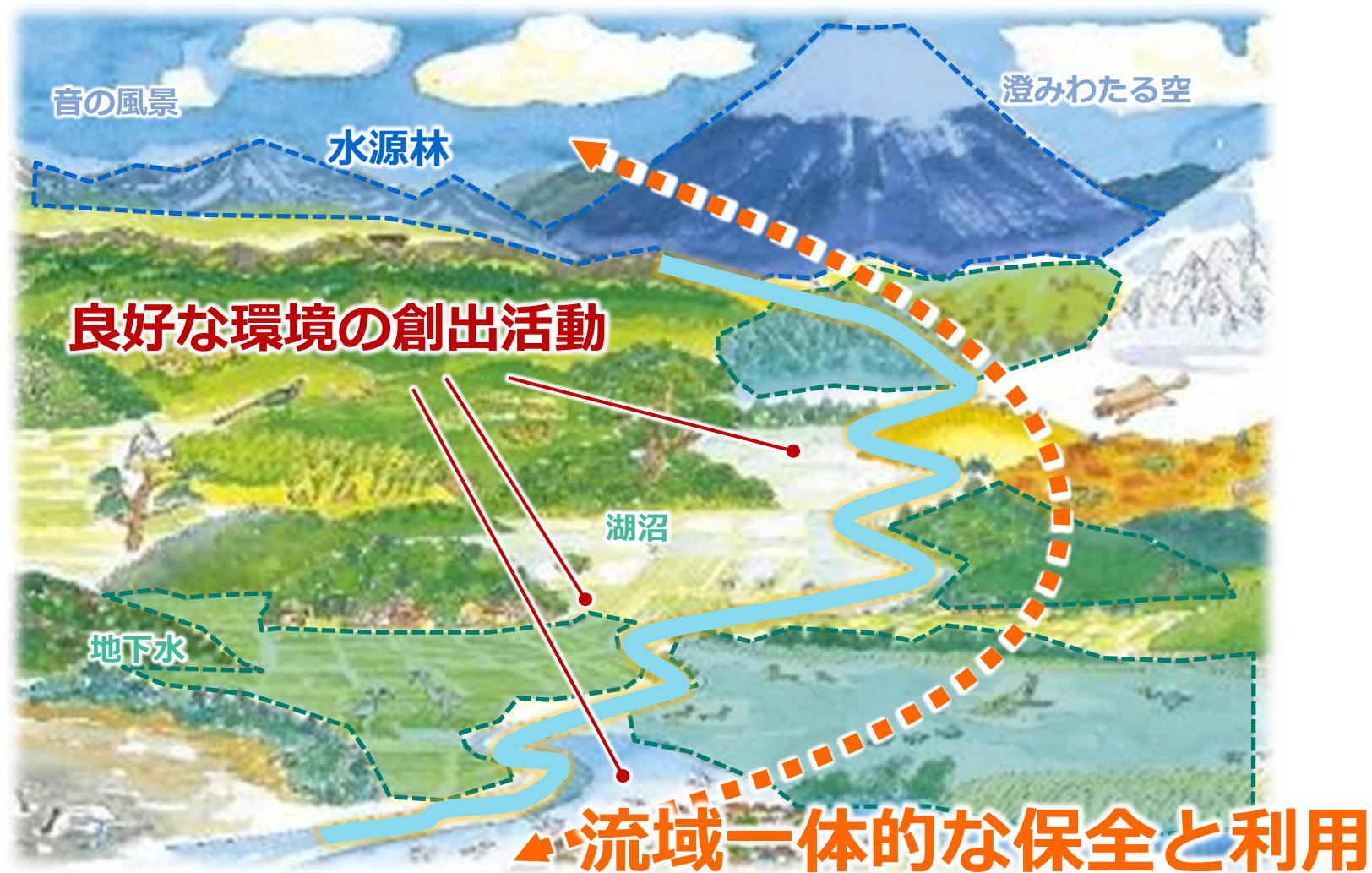
- ・活動支援 (17件)

【協定名称】

流域の視点からの沿岸生態系の再生を通じた里海づくりの推進に関する協定

【内容】

- ・双方が支援する地域事業間の連携や情報及び経験の共有
- ・双方が支援する地域事業から得られた知見及び経験等の総括及び活用
- ・取組の重要性や認知度の向上



良好な環境の創出に向けた取組の全体像（現状）



- 地域においては、良好な環境の保全・再生・創出に向けた取組が盛んになってきているものの、「**その価値が地域内外で十分に認識されていない**」、「**高齢化等により、維持・保全に従事する人材が不足**」、「**自立的に保全・再生・創出を行うための資金が不足**」といったことが課題となり、**持続可能な取組が多くない**。
- そのような課題を解決し、**持続可能な取組が増えるよう、以下を実施し、地域を支援**。

地域の取組支援

モデル事業の実施

情報共有・発信・連携・マッチング

プラットフォームの運営

情報発信

SNSの運営

連携・マッチング

シンポジウム開催

科学的知見蓄積

研究推進

令和7年度のモデル事業

■ 令和6年度

良好な環境創出活動推進
モデル事業

「令和の里海づくり」
モデル事業

■ 令和7年度から

淡水エリアにおける
保全と利活用

良好な**水環境保全・活用**
モデル事業

沿岸エリア(里海)における
保全と利活用

戦略的「令和の里海づくり」
基盤構築支援事業

良好な環境を生かした
インバウンド観光地域づくり

良好な環境を活用した
観光モデル事業

保全・活用

活用

国民のウェルビーイングや地域の魅力度・活力を向上させる
望ましい水環境・水循環等を実現



- 情報収集・情報交流
- つながり促進
- 地域の水環境保全・活用の取組を **閲覧可**

行政・企業・各種団体・個人等、計**486**者が参加
(2026年1月14日現在)

★★会員登録はこちらから

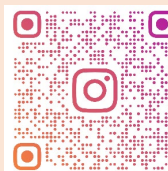


環境創造室公式アカウント
「良好な環境」推進チーム【環境省公式】

Facebook



Instagram



X



ぜひご参画 & 多くのいいね・フォローを
お願いいたします!!

令和8年度の方向性について（モデル事業）

令和7年度

実施中

淡水エリアにおける
保全と利活用

良好な水環境保全・活用
モデル事業

2年事業

沿岸エリア（里海）における
保全と利活用

戦略的「令和の里海づくり」
基盤構築支援事業

3年事業

良好な環境を生かした
インバウンド観光地域づくり
（陸・海問わず）

良好な環境を活用した
観光モデル事業

2年事業

令和8年度

R7から継続

良好な水環境保全・活用
モデル事業

戦略的「令和の里海づくり」
基盤構築支援事業

良好な環境を活用した
観光モデル事業

環境本省にて引き続き実
施。1/15追加公募開始。

※令和8年度の政府予算の成立が前提

淡水～沿岸エリア（里海）における保全と利活用

新規

地域支援事業（仮称）

各地方環境事務所にて
実施予定。

①今後の予定：環境本省事業

- ・ 1月15日 公募開始 済
 ×切：2/13（水・里海）、2月末（観光）
- ・ 1月20日 公募説明会 済

良好な水環境保全・活用
モデル事業

戦略的「令和の里海づくり」
基盤構築支援事業

良好な環境を活用した
観光モデル事業

<スケジュールイメージ>

	2025 年 12月	2026 年 1月	2026 年 2月	2026 年 3月	2026 年 4月	2026 年 5月	2026 年 6月	～	2027 年 2月	2027 年 3月
公募		説明会 公募期間								
審査			審査(検討会含む)							
					通知					
事業実施						再委託契約、初回打合せ、事業実施				

※その他、成果発表会、シンポ、フォーラム、研修会等も計画中

環境省報道発表のご確認をお願いいたします！

②今後の予定：地方環境事務所事業

- 1月 **下旬以降** 公募開始【地方環境事務所毎】

地域支援事業（仮称）

<スケジュールイメージ>

	2025 年 12月	2026 年 1月	2026 年 2月	2026 年 3月	2026 年 4月	2026 年 5月	2026 年 6月	～	2027 年 2月	2027 年 3月
公募		公募期間								
審査			審査(検討会含む)		通知					
事業実施					再委託契約、初回打合せ、事業実施					

※その他、成果発表会等も計画中

環境省報道発表のご確認をお願いいたします！

令和 8 年度の方向性について（プラットフォーム等）

令和 7 年度

水辺の環境活動プラットフォーム

SNSの運用・発信

行政・企業・各種団体・個人等、計**486**者が参加
(2026年1月14日現在)

・ Facebook、Instagram、Xの運用を開始



令和 8 年度

拡充・強化

新規

水辺の環境活動プラットフォーム

- ・ 定期的な**情報共有の場**を新規運営
- ・ **里海づくり**のネットワークを強化

SNSの運用・発信

- ・ 新たな企画を検討

＋ **制度化**に向けた検討

- ・ **中環審での議論**を
R7.12.25から開始

ブルーカーボン ネイチャーポジティブ...

里海づくりネットワークを設置

※一般社団法人ブルー・オーシャン・イニシアティブ（BOI）と共同運営

2026/1/30 里海づくりシンポジウム開催

「里海づくりシンポジウム」
で検索！



■ 良好な水環境や里海づくりに携わる関係者の共創の場として、12月22日に都内で「良好な環境創出シンポジウム2025」を開催、1月30日に大阪で「里海づくりシンポジウム」を開催予定。

令和7年度 里海づくりシンポジウム

未来へつなぐ里海の知と実践

本企画は、環境省が推進する「令和の里海づくり」基盤構築支援事業の途中成果と、S-23 環境研究総合推進費による科学的知見を融合し、地域実践と研究成果の相乗効果を図ることを目的とします。さらに、一般市民や若手研究者、自治体関係者との対話を通じて、持続可能な里海づくりの未来像を共創します。

日時

2026年
1月30日(金) 13:00-18:00

会場

難波御堂筋ホール ホール7
大阪市中央区難波 4-2-1 難波御堂筋ビルディング

プログラム

開会挨拶 「令和の里海づくり」のビジョンと今後の展開
事例紹介 戦略的「令和の里海づくり」基盤構築支援事業企業の取組
環境研究総合推進費 S-23 プロジェクトの研究紹介
クロストークセッション「科学と実践の融合による里海づくり」
令和の里海づくりポスターデザインコンペティション表彰式
閉会挨拶

会場のみ **ポスターセッション**

会場

定員 120名
1月26日正午まで

参加申込

参加無料

オンライン

定員 500名
1月30日正午まで

お問い合わせ 里海づくりシンポジウム事務局
公益財団法人国際エメックスセンター シンポジウム担当 satoumi@emecs.or.jp

共催 環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海域環境管理室
環境研究総合推進費 S-23 プロジェクト・国立環境研究所 協力 一般社団法人 Blue Ocean Initiative



[参加申込フォーム]

里海づくりシンポ
(会場)



里海づくりシンポ
(オンライン)



ブルーカーボン ⇒ 観光事業への展開

岡山県広域 里山・里海 学習体験型コミュニティプロジェクト
OKAYAMA SATOYAMA-SATOUMI UNIVERSITYプロジェクト

Google earth



里山の営みが豊かな里海を作っている。水のつながいと
各エリアの保全活動を一気通貫で 学ぶ/楽しむ/仲間を作る



笠岡市
かさおか島ラボ
海洋牧場で多様な生物が生きる
瀬戸内海を維持する
活動を学び体験する



規制行政からの転換：地域の関係者による里海づくり

漁業者をはじめとする関係者との協働による里海づくり

保全と利用の両立

目指す姿は
地域が決定

環境問題と経済・社会
課題との同時解決

環境部局

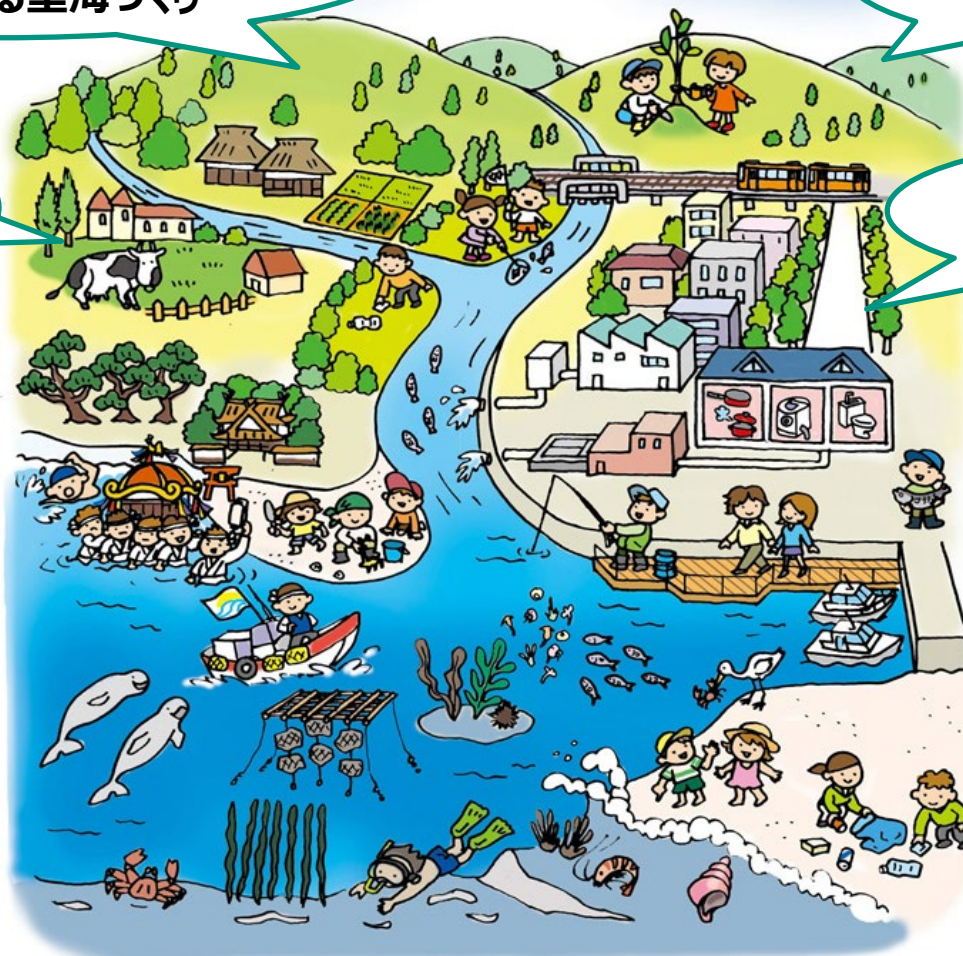
漁業関係者

観光関係者

市民

地元企業

教育関係者



ニーズ（時代の要請）に対応した、健康で心豊かな暮らしの実現へ